

第1回 自動車安全技術プロジェクトチーム会議の概要

1 開催日時等

日 時：平成25年6月12日（水）午前9時30分～10時50分

場 所：本庁舎3階特別会議室

出席者：

【企業】河野 慎司 アイシン精機(株) 技術企画部 部長格
松永 栄樹 (株)アドヴィックス 制御第2技術部長
石尾 渉 オムロンオートモーティブエレクトロニクス(株)開発統括室技術開発部長
樋口 正浩 (株)デンソー 情報安全事業グループ情報安全技術企画室長
森 敬一 トヨタ自動車(株) IT・ITS企画部長
浅田 浩之 三菱自動車工業(株) 電子技術部担当部長

【大学】小栗 宏次 愛知県立大学 情報科学部 教授
鈴木 達也 名古屋大学 大学院工学研究科機械理工学専攻 教授
武田 一哉 名古屋大学 大学院情報科学研究科メディア科学専攻 教授

【行政】国土交通省中部運輸局、豊田市都市整備部交通政策課、愛知県警察本部、愛知県産業労働部、地域振興部、県民生活部、建設部

2 議事概要

本会議の開催にあたり、知事より挨拶いただき、事務局より資料1, 2について説明を行った。主な発言は以下のとおり。

【主な発言】

- 県、県警が保有する交通事故データと走行中のクルマを通じて収集・蓄積したプローブ情報（車両速度、走行状況、急ブレーキ箇所など）から、交通事故発生が考えられる箇所を見える化し、交通事故危険箇所の原因調査や対策の検討を進めていく。
- プローブ情報の研究にあたり、交通事故情報について共通のデータベースを作って、それをもって研究できるような環境づくりが必要である。
- 高齢者、歩行者に着目した技術開発を進めていきたい。将来に向けた技術開発について、特に社会実験など、効果検証に対する支援により、開発の加速化が期待できるのではと考える。インフラと協調した実証実験などは企業単独ではできない。システムの実現、普及に向けて、県などの行政と連携した実証実験が不可欠である。
- 自動走行の本質は、予防安全技術そのもの。実証実験の場を愛知県が提供してデータを集め、大学と協力しつつ分析し、新しい技術開発につなげていくことを期待したい。
- 車線逸脱警報システムは、車線を認識する技術だが、車線にもいろいろな種類があり、認識率が変わる。車線の統一化も必要である。

- 「交通事故死者ゼロ社会を目指す」などメンバーが共有できる明確な目標があるとよい。ワースト1位は、課題先進地域と言える面もあり、なぜ事故が多いか分かれば、強い武器になる。
- 本県の交通死亡事故の特徴である高齢者、交差点の事故防止に重点を置いている。また、交通事故の原因の約8割を占めているのがドライバー、このドライバーに焦点をあてて対策を講じている。
- 人口分布に占める高齢者比率は大体21%ぐらいで、今後上がってくる。高齢者を中心とした事故の抑止、自動車安全技術の向上が不可欠。高齢者が歩行中にどんな状態で事故にあっているか、8割が横断中であり、うち、交差点が6割、交差点から30m以内が1割5分と、合わせて7割5分が交差点周辺であり、横断中に事故に遭っている。時間帯では、18～20時が2割5分、16～20時が4割となっている。
- 既に製品化されている安全技術搭載車の普及に向けた啓蒙活動の推進をお願いしたい。例えば、高齢者や新ドライバーが集まる場所や自動車学校での紹介など。
- 自動車教習所などでの教習方法として、全国的にも最も安全を重視した教習方法の考案・導入について検討してはどうか。